

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書

平成30年10月18日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団  
会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 医学研究科 侵襲反応制御医学講座(麻醉科)

職 名・学 年 博士課程3年

氏 名 武田 親宗

助成の種類	平成30年度 ・ 国際研究集会発表助成	
研究集会名	the ANESTHESIOLOGY annual meeting 2018 San Francisco	
発表形式	<input type="checkbox"/> 招待 ・ <input type="checkbox"/> 口頭 ・ <input checked="" type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他( )	
発表題目	Is Arterial Catheter With Pulse Wave Analysis For Abdominal Aortic Aneurysm Repair Or Stenting Associated With In-hospital Mortality?	
開催場所	San Francisco	
渡航期間	平成30年10月12日 ～ 平成30年10月17日	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( )	
会計報告	交付を受けた助成金額	200,000円
	使用した助成金額	200,000円
	返納すべき助成金額	0円
	助成金の使途内訳	渡航費用＋滞在費用: 300,000円
		学会参加登録料: 30,000円
(上記助成金を充当)		
当財団の助成について	今回助成を受けさせていただきありがとうございます。有意義な学会参加が叶いました。助成額は地域によってはホテル代等でよりかかりますがいただく額としては十分かと思えます。	

## 成果の概要

医学研究科 博士課程 武田親宗

### 【学会の概要】

学会名:2018年米国麻酔学会年次集会(ASA2018)

開催地:アメリカ San Francisco

開催期間:2018年10月12日~17日

このたびは公益財団法人京都大学教育研究振興財団の助成を得て、国際学会参加(ASA2018@San Francisco 世界で一番大きな麻酔科の学術集会)して、研究発表と学会参加をしてきました。個人的には初めての海外学術集会での発表と参加であり非常に有益な時間を過ごすことができました。以下 1.私の研究発表について 2.学会で聴講してきた内容について 3.その他をまとめて今回報告させていただき成果報告とさせていただきます。

#### 1. 私の研究発表について

学会発表の内容は、以下の通りです。

腹部大動脈瘤AAAに対する人工血管置換術・ステント留置術は、術中の血行動態変化が激しく輸液管理に難渋することがある。また、冠動脈疾患を合併することも多く心拍出量COを意識した管理が重要である。また、波形解析機能付き動脈カテーテルAPWAを用いた、COや一回拍出量呼吸性変動SVVを指標とした輸液管理の有用性が指摘されている。今回、AAAの人工血管置換術・ステント留置術におけるAPWAの使用と予後の関係について、日本の医療界のビックデータと言われるDPCデータを用いて、プロペンシティスコアマッチングで共変量を調整して後方視的に検討した結果、APWAの使用はAAAに対する手術の院内死亡とは関連していなかったが、院内死亡を減らす傾向が示唆された。

座長とコーディネーター付きのポスターセッションであり、プロペンシティスコアマッチングにどの変数を入れたのかなど詳細なことを座長から質問を受けました。本研究は現在行っている研究の一部であり、結果を出版できるように引き続き努力していきたいです。

#### 2. 学会で聴講した内容

麻酔科学領域では世界一と言われる学術集会であり、聴講などでも大いに得るところがありました。自分のPoster Presentationのセッションのみならず、やMedical Challenge セッシ

ョン（症例報告）というものに元の勤務先の後輩たちが演題をだしていたのものあり、アメリカの研究者やレジデントたちの発表を聞く機会もありました。プレゼンの国であり非常に参考になりました。

症例報告でも上肢の先天欠損患者に対する人工膝関節置換術の麻酔時の点滴確保の工夫(鎖骨下静脈を利用)とか、豊胸手術の術後に急な凝固障害を起こし原因を調べると静脈性血管奇形があり手術侵襲で血流が鬱滞した部分で凝固が亢進し局所性血管凝固障害（LIC）を起こしたなどなかなかお目にかかれない症例報告を聞くことができ有意義でした。

その他、いろんなセッションを聞くことができました。Randomized Control Trialの発表では、Met study：今年のLancetに結果が出た術前運動耐容能の評価は問診だけではなく、duke activity status indexなどを用いてより客観的に評価するのがよいという結果や、新生児麻酔薬のneurotoxicityのRCTの5年後のIQの追跡結果で差がなかったという内容などがありました。また、大きなセッションテーマとしてBrain health related sessionというものがあり、老年麻酔とPost-operative cognitive dysfunction (POCD)やPost-operative delirium (POD)などを改善させる目的で術前術後管理をプロトコル化して行っていることや、術前の認知機能改善のためにゲームなどをさせ認知機能改善を図るRCTが進行中である（PEAPOD study）ことなども大きなテーマであったと思います。ここなども今後の研究テーマとして考えており、おおいに勉強になり刺激を受けました。

### 3. その他

現地USCFに留学中の大学先輩とお会いでき、留学の実情を伺ったりする時間もあり海外の学会ならではの感じました。また、学会2日目の夜には、PittsburghのProfessor酒井先生（移植麻酔・医学教育）やPhoenixのProfessor橋本先生（神経麻酔）らが、参加している現地麻酔科医や日本から参加の麻酔科医の交流会を開いてくださったこともあり多くの方の知遇を得ることができこれも国際研究集会参加ならではの醍醐味であると感じました。

### 4. 謝辞

今回、ASA2018@San Franciscoへの参加、研究成果の発表は貴重な経験となりました。このような機会を与えて下さった公益財団法人京都大学教育研究振興財団の国際研究集会発表助成に心より御礼申し上げます。